

2003年6月決算期 第一四半期決算説明会 2002年11月13日

株式会社インターネット総合研究所
代表取締役 藤原 洋

(注) 当資料は、当社の2003年度6月決算期第一四半期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2003年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目次

- (1) 2003年6月期第一四半期決算実績
- (2) 総合IPネットワーク・ソリューション・
プロバイダーとしての展開
- (3) 主な事業の動向

{ 1 }

2003年6月期第一四半期決算実績

(単位:百万円)	2002・6月期 第1四半期	2002・6月期 第2四半期	2002・6月期 第3四半期	2002・6月期 第4四半期	2002・6月期 通期	2003・6月期 第1四半期	前年同期比 (%)	今期見通し
売上高	1,564	1,765	2,264	2,118	7,711	2,117	35.3%	8,500
うちIPネットワーク事業	392	357	854	760	2,363	629	60.5%	2,940
うちIPプラットフォーム事業	1,162	1,395	1,401	1,353	5,311	1,485	27.8%	5,550
うちその他事業	10	13	7	6	36	2	-80.0%	10
売上総利益	396	370	437	135	1,338	302	-23.7%	-
販管費	591	683	807	681	2,762	463	-21.6%	-
うち連結調整勘定償却	155	154	158	8	475	0	-	-
営業利益	194	313	370	546	1,424	161	16.9%	480
(持分法による投資損失)	652	728	651	779	2,810	165	-74.7%	480
経常利益	862	1,089	1,024	1,353	4,328	333	61.4%	0
当期純利益	984	1,090	1,316	1,393	4,783	324	67.1%	160

売上高: 21.1億円

BBTowerの大口案件獲得とTAU技研の堅実な受注の継続によって前年同期比35.3%増

売上総利益: 3.0億円

設備産業であるBB Towerは四半期70百万円の黒字化を達成

営業損失: 1.6億円

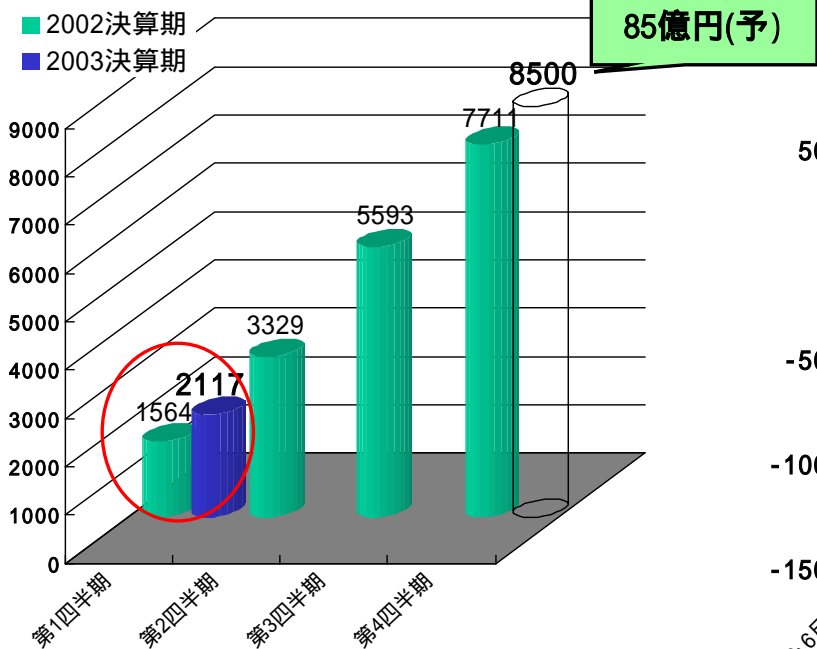
連結調整勘定償却は前年度第3四半期までに完了。今年度下期の黒字化を目指す

経常損失: 3.3億円/当期純損失3.2億円

持分法適用会社の損失分1.6億円

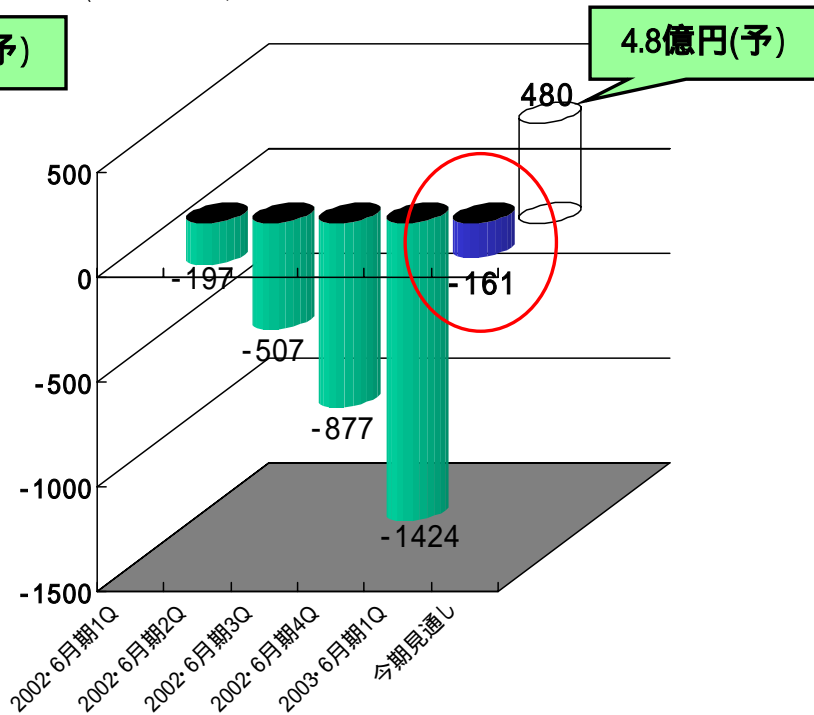
売上高対前年度比グラフ

(単位100万円)



営業利益; 推移グラフ

(単位100万円)



第一四半期: 財政の状況



(単位: 百万円)	2002・6月期 第1四半期	2002・6月期 第2四半期	2002・6月期 第3四半期	2002・6月期 第4四半期	2003・6月期 第1四半期	前年同期 比	前期末比
流動資産	6,713	7,229	7,088	4,987	4,814	-28.3%	-3.5%
うち現金・預金	4,062	3,676	4,117	1,447	2,014	-50.4%	39.2%
うち受取手形・売掛金	1,615	1,776	2,101	1,645	1,737	7.6%	5.6%
固定資産	6,735	5,890	6,266	5,109	4,924	-26.9%	-3.6%
有形固定資産	182	249	2,205	2,124	2,111	1059.9%	-0.6%
無形固定資産	319	168	59	37	34	-89.3%	-8.1%
投資その他資産	6,233	5,472	4,001	2,948	2,779	-55.4%	-5.7%
資産合計	13,449	13,120	13,355	10,097	9,740	-27.6%	-3.5%
流動負債	1,906	2,324	3,040	2,715	2,606	36.7%	-4.0%
うち支払手形及び買掛金	1,148	1,342	1,708	1,526	1,610	40.2%	5.5%
うち短期借入金 (TAU技研)	474	541	545	406	450	-5.1%	10.8%
固定負債	77	232	1,145	961	961	1148.1%	0.0%
うち長期未払金 (BBTower)	-	-	1,021	880	877	-	-0.3%
負債合計	1,983	2,558	4,185	3,677	3,567	79.9%	-3.0%
少数株主持分	1,758	1,691	1,896	416	483	-72.5%	16.1%
資本合計(株主資本)	9,707	8,870	7,274	6,003	5,687	-41.4%	-5.3%
負債・少数株主持分および資本合計	13,449	13,120	13,355	10,097	9,740	-27.6%	-3.5%

現預金ポジションの増加
IT事業ではない保有有価証券の
処分など(前期に未収金計上分)

BBTower設備分の増加による

短期借入金ならびに長期未払金
短期借入金はTAU技研分、
長期未払金はBBTowerの設備投資
割賦払残高分

少数株主持分の増加
IT事業としてICOの増資に応じた際
の他社株主への割当による
株主資本
前年同期比 41% 前期末比 5%

〔2〕

総合IPネットワーク・ソリューション・
プロバイダーとしての展開

2003年6月期～IRIは成長期フェーズのスタート年度

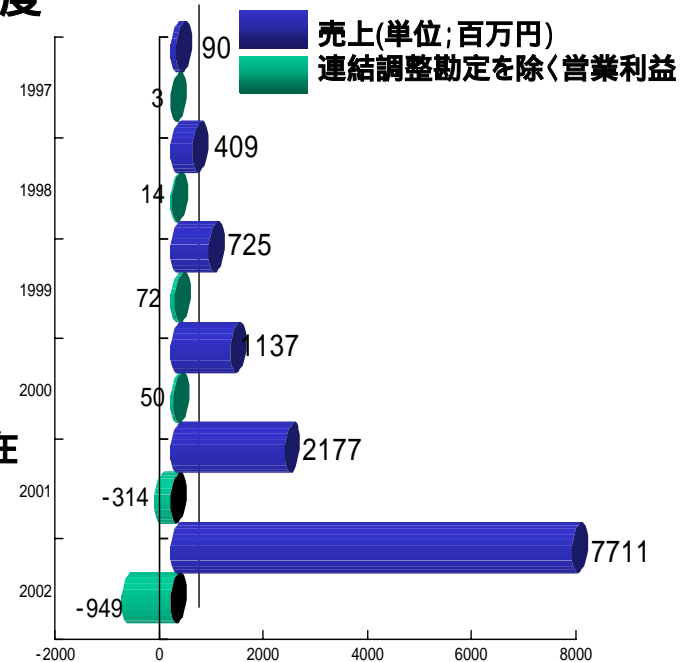
1. 日本初の商用IX; JPIXを起案・構築・運用: 1997年～現在

2. 日本初のモバイルISPの構築・運用支援: 1998年～現在

* 東証マザーズ上場により先行投資期のフェーズに突入

3. 日本最大のトラフィックを発生するYahoo!サーバの運用: 2001年～現在

4. 世界初のブロードバンド'エキステンジ'の構築・運用: 2002年～現在



最先端ネットワーク技術の実績

企業経営IP化の要

ネットワーク技術が、
企業の情報システムの
成否を握る時代

先行投資期で形成したグループ各社の経営資源の最適化
黒字化・キャッシュフローポジティブの経営体制へ

前期迄



3～6月
 総合IPネットワークソリューションプロバイダー事業の
 始動にあたって
 IRI本体の人材、資源の、IPネットワーク子・関連会社
 投入による、フォーメーションの確立

7～8月
 企業顧客開拓の実績豊富な経営幹部、スタッフの加入

	子会社化に 伴う資本(3月) 人材(3・6月)投入	大手企業情報 システム部門 からの新規案件 受託
	事業拡大に 伴う人材(6月) 資本(9月)の投入	

9月

新経営体制の発足

営業力、ソリューション提供力の強化



(IRI本体 黒字化を目指す事業戦略の始動)

- インタープライズ'顧客からのニーズ吸い上げ機能の強化
- ATABOK社と提携のセキュリティソリューション
- インタープライズ'顧客へのIPオンサイトサービス

企業価値創造とグループ戦略の再構築



先行投資期で形成したグループ各社の経営資源最適化
黒字化・キャッシュフローポジティブの経営体制へ

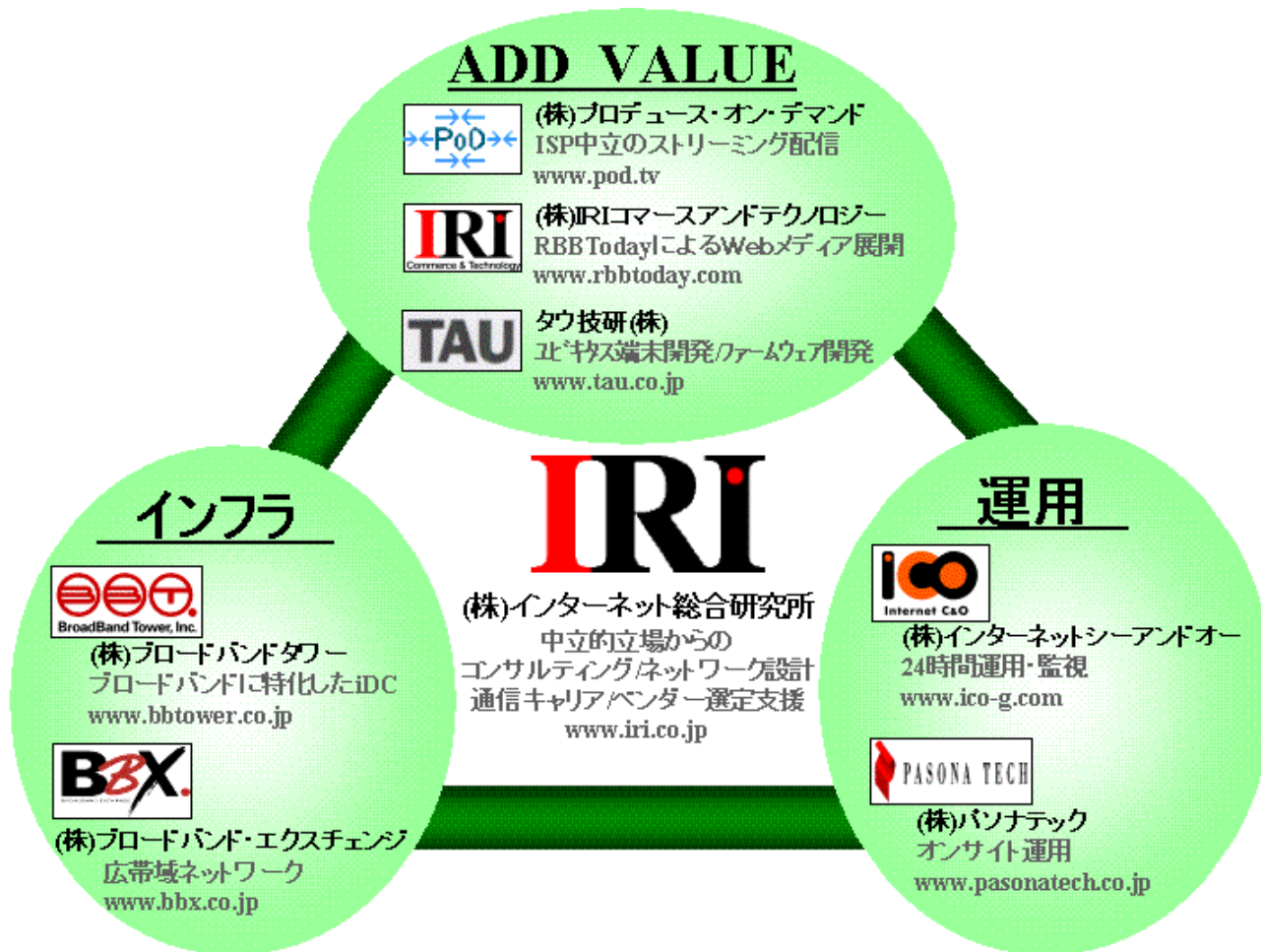
研究開発、知的所有権関連の体制強化



IRI本体に「ユビキタス研究所」部門の新設

コーポレートガバナンス・社内諸制度(人事制度、コンプライアンス、内部監査、等)の再構築

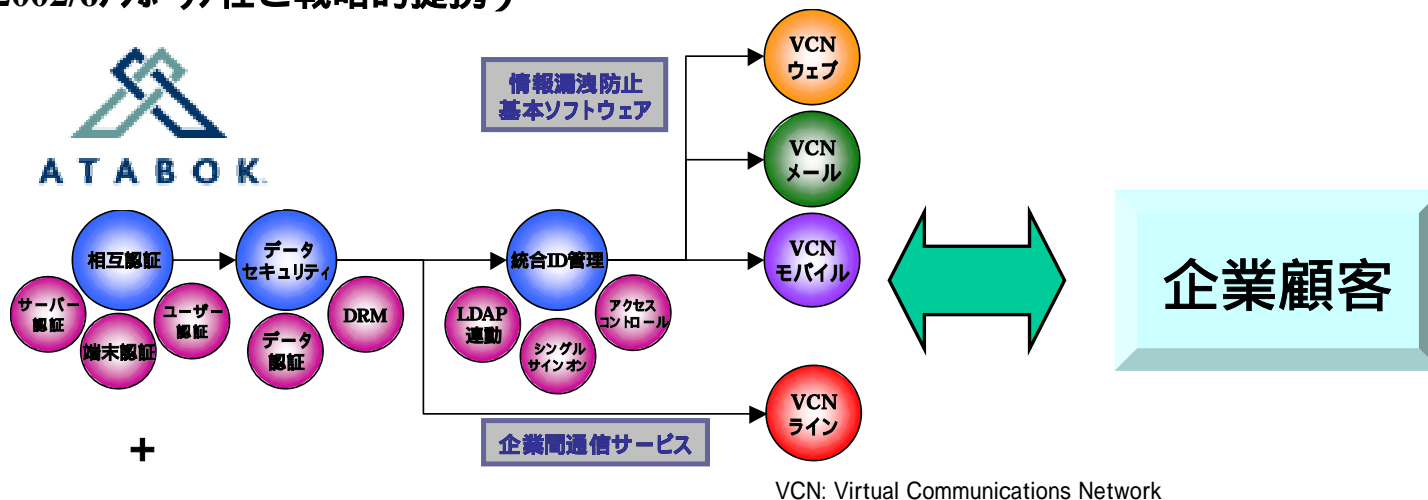
営業力・ソリューションの強化のフォーメーションを以下のとおり構築



1. IPネットワーク事業

エンタープライズ顧客対応への資源と人材の投入は完了。IRIグループ、外部企業との提携によるIPネットワーク・ソリューションプロバイダーとしての事業を推進

(2002/6月アタボック社と戦略的提携)



企業顧客のIP化に伴う
ネットワークソリューションを提供

2. IPプラットフォーム事業

タウ技研

通信・モバイル、映像事業で培った基礎技術を礎にしたCDN(コンテンツデリバリーネットワーク)等のビジネスの裾野拡大に着手
組み込み型ソフトウェアの開発において既に大企業顧客を開拓

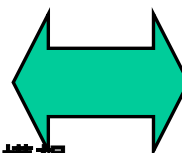


(IPネットワーク事業)

ネットワーク技術

- ユビキタス端末の開発
- 映像信号制御回路/ファームウェア
- 無線制御系ファームウェア

- ブロードバンド配信センター構想
- CDN
- コンテンツホルダーとのコネクティビリティ



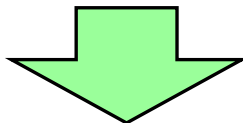
企業顧客



ユビキタス環境の進展にむけた シナジーの最大限の発揮をめざす

3. “IRIユビキタス研究所”部門の新設

知的財産権の確保に重点指向し、IRI本体に「ユビキタス研究所」部門を新設(2002年10月1日)。



自動車、機械、化学など非IT系の基幹産業へのIPネットワークの組込技術にフォーカスした、産学官共同の研究開発を推進。

研究開発のテーマ

「ユビキタスネットワーク + コンピューティング技術」

ブロードバンドとワイヤレス・ネットワーク環境を組み合わせることで、家庭、自動車、電車、オフィス、工場などで一貫したシームレスなネットワーク + コンピューティング環境を実現するための技術。(IPv6 関連、組込み型OSとネットワークの融合、セキュリティシステム)

〔3〕
主な事業の動向

重要連結子会社

会社名	事業内容	出資比率
(株)ブロードバンドタワー (旧グローバルセンター・ジャパン)	ブロードバンド時代の情報発信拠点としてのiDC事業を展開。IRI技術の集約拠点	67.6%
(株)インターネットC&O	日本電話施設、日本コムシス、キャン子会社との合併 IPネットワーク・サーバの24時間運用保守	56.6%
タウ技研(株)	画像・映像信号処理・ネットワーク機器の開発会社	100.0%
IRI C&T	メディアマーケティング(日本最大のブロードバンド情報 専門サイトの運営)と代理店	100.0%

主要な持分法適用会社

会社名	事業内容	出資比率
(株)ブロードバンド・エクスチェンジ (平成15年6月期より、持分法適用会社)	NEC、松下電器、東京電力、NTTデータ、住友商事との合併。 メトロポリタンエリアにてiDC、ISP、BBキャリア向けに Layer3のBBトラフィック交換サービスを提供	45.4%
(株)プロデュース・オン・デマンド	通信と放送の融合を目指した、次世代放送システムの研 究・開発および構築	30.9%
モバイル・インターネットキャピタル(株)	モバイル及びインターネット関連にフォーカスした、ベン チャーキャピタル	30.0%
(株)パソナテック	ITスタッフ登録数で日本最大規模の、IT技術者の派遣・紹介 企業	25.5%

戦略的合併会社

会社名	事業内容	出資比率
日本インターネットエクスチェンジ(株)	KDDI(第1位)、IRI(第2位)他合計16社の合併 現在約100 社のISP向けのトラフィック交換サービスを提供	9.2%

四半期売上総利益黒字達成、2003年1月以降は単月営業黒字化の見通し

	2002年6月期 1-3月	2002年6月期 4-6月	2003年6月期 7-9月	対直近四半期 増減率
売上高	208百万円	291百万円	436百万円	50%
売上総利益	111百万円	52百万円	70百万円	235%
営業損失	186百万円	187百万円	28百万円	-85%
期末時点稼働率概算	24.8%	36.8%	56.8%	54%

* 稼働率は順調に推移しているが、下期以降は

有望顧客の運用実績を礎に、高付加価値の徹底的追求によりiDC業界の勝ち組を目指す

付加価値iDCの成功要因として

- 有望顧客の囲い込み
- 競業他社との差別化



ビジネス企画段階からの入り込み

Yahoo!Japan, JPIX, BBXに続き、U'sコミュニケーション、大手携帯電話会社
大手コンシューマープロダクトメーカーをはじめ大口顧客を獲得

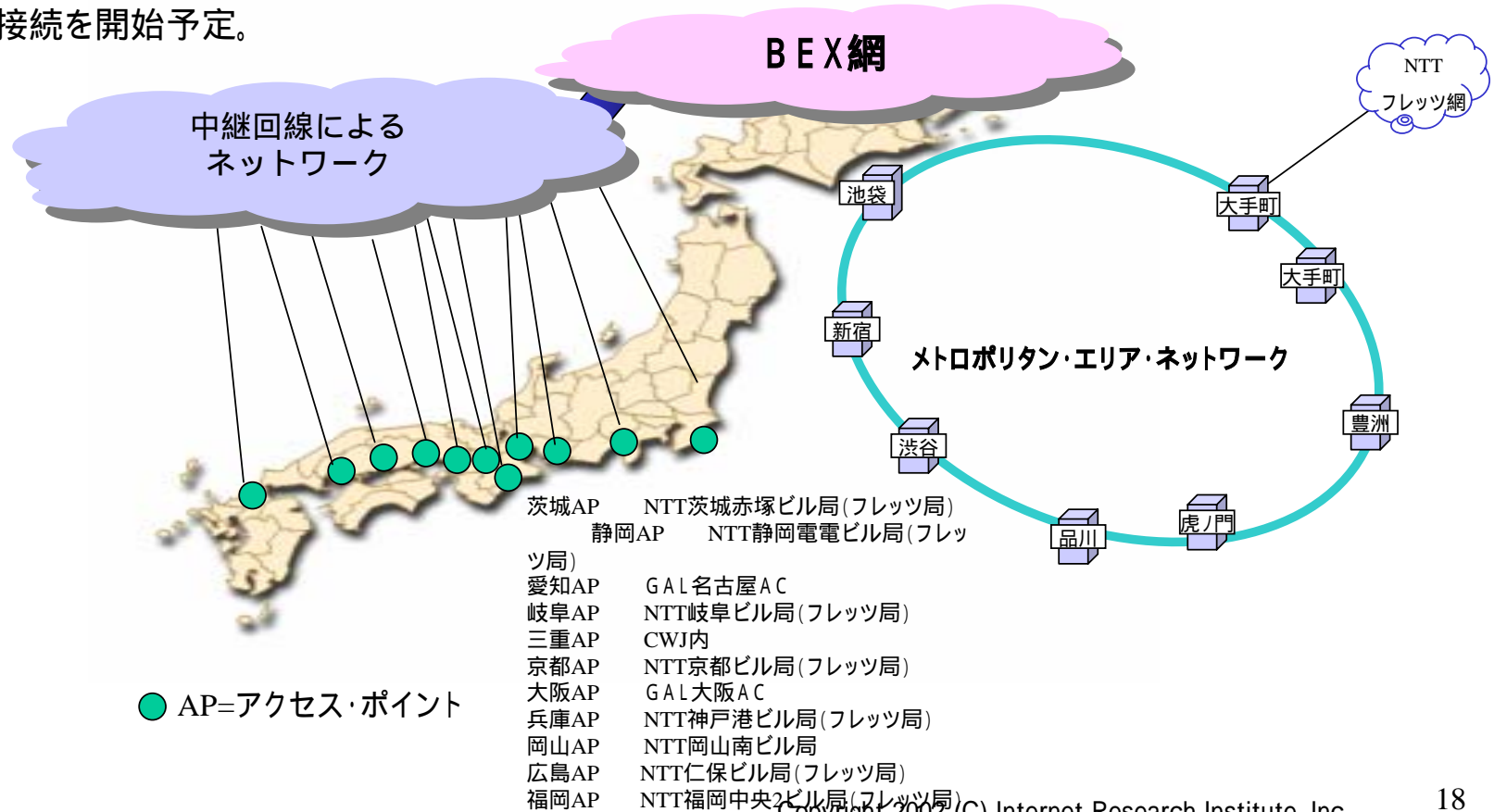
マルチキャリア・コンビネーションの付加価値サービスによって更なる差別化を目指す
一例として

高速アクセス網を通じ複数のブロードバンド事業者**にダイレクト**配信するBB配信センター構想の実現化

全国展開を視野に、2002年10月より 東名阪・福岡の主要都市へ展開！

2003年3月期第一四半期実績； 売上 18百万円 営業損失 343百万円

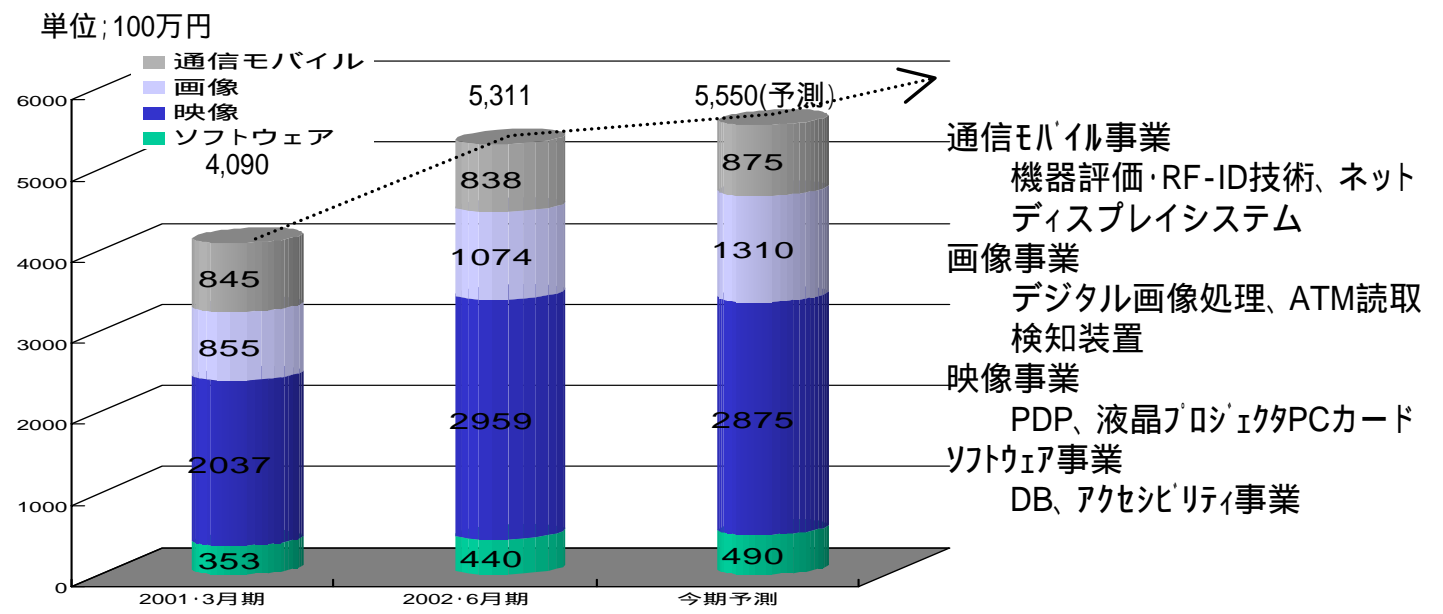
都内8カ所のNOC(network operation center)により、東京23区のメトロポリタンエリアをカバー。更に2002年10月からは茨城から東名阪福岡までのエリアをカバー。また、大手町よりNTTフレッツ網への接続を開始予定。



IRIユビキタス研究所との協業によるプラットフォーム開発に着手

通信モバイル、映像事業等で蓄積した技術を礎にしたCDN(コンテンツデリバリーネットワーク)等 IPネットワーク事業との協業ビジネスの裾野拡大

2003年6月期第一四半期実績；売上1,485百万円 営業利益46百万円



(2001年4 - 6月期は3ヶ月決算の為、割愛)

インターネットインフラの発展を推進、共に成長 **IRI**

創業期

先行投資期

成長期

